

私たちの活動や意見を平和委員会の仲間たちに伝えます

私たちの会費が日本平和委員会と茨城県平和委員会の活動を支えています

土浦平和の会

ニュースNo. 267 2014年5月

発行 土浦平和の会

事務局 土浦市神立町2664-2

TEL、FAX 831-9122

<http://heiwatutiura.web.fc2.com/>



5月3日、水戸の千波公園で開かれた「憲法フェスティバル」で、八法亭みややっこ（弁護士）の憲法落語。

6月1日（日）午後1時半～3時 COOP 2階 土浦平和の会の総会

会員の方のご出席をお願いします。

午後3時～ 結成20年記念パーティ

20年を振り返り、協力、共同の各団体から挨拶をいただきます。

アルコールも少々用意しますので、飲酒の方は運転は控えてください。

活動ごよみ

- 5. 6 秘密保護法署名行動（土浦駅）
- 5.16 土浦平和の会理事会
- 5.17 原爆展実行委員会（4中地区公）

- 6.1 土浦平和の会総会（20年記念パーティ）
ニコエコ実行委員会

平和の会ニュース、平和かわら版（PDF版）配信しています

平和の仲間へ伝えたいニュースやご意見を事務局にお寄せください FAXは029-831-9122

早い、確実に届くご希望の方はeMailアドレスをご連絡ください

シリーズ 私の体験 (12)

東京大空襲を体験して

椎名愛子

私は、東京浅草に小さな町工場を経営する父と母、姉と四人で住んでいた。いわゆる下町で近所仲良く、スイカ割り、花火大会、餅つきなど、みんな総出で楽しく暮らしていた。

戦争が始まって、はじめのうちは大勝利に沸いていたが、次第に戦局が悪くなり、とうとう空襲されるようになった。警戒警報から空襲警報に変わると、みんな急いで防空壕に入って、震えながら敵機の過ぎ去るのを待っていた。爆弾が落とされると、相当離れていてもズシーンと地響きが伝わってきて恐ろしかった。はじめは、立川やその他の軍需工場が主として狙われ大きな被害を受けていた。日に日に空襲が激しくなってくると、学童疎開や田舎に移転する人が増えたが、東京で生まれ育った我が家では行くところがなかった。

3月10日未明にかけてB-29(爆撃機)多数が来襲し、焼夷弾を雨あられのように次々と落としていった。炎を吹きだしながら我が家の天井と入口あたりにも落ち、めらめらと燃え出した。消そうと思ったが火は強風にあおられ猛烈な勢いで燃え広がっていく。もう逃げるしかないと思い、防空頭巾と手拭いを水の入ったドラム缶に入れ、びしょびしょに濡らしてかぶり、リュックを背負って表に出た。

表は、リアカーに荷物を積んだり、あかちゃんを背負ったり、両手に荷物を抱えた人などでごった返していた。私達も逃げようとしたら、父が「ちょっと待ってろ、様子を見てくる。」と言って自転車に乗って行ってしまった。私たちが立っていると近所の人たちが走りながら、「福井さん(旧姓)早く逃げないと危ないよ。」と声をかけてくれる。じりじりと焦るが動けない。少したって、やっと父が帰ってきたが「みなぎ逃げて行ったその先はもう火の手が上がり燃え出しているから、もうどこにも逃げ場はない。はじめに焼けた跡しかないから荷物をぜんぶ捨てる。」というので身一つになり、焼け落ちて黒ずんだ所へ入って行ったが、ゴオーッと音を立て真っ赤な電線が飛んできたり、燃えきらない犬の死骸がブスブス煙って転がっていたりするので生きた心地なく、降ってくる無数の火の粉を濡れ手拭いで夢中で払いながら耐えていた。まさに生き地獄である。

二時間位たったころは、B-29の爆音はしなかった。東の空が少しずつ明るくなってきたが、舞い上がる火の粉で空まで燃えているように見えた。敵機はすべてを焼き尽くして去ったのである。私たち家族は死を免れたものの、見渡す限りの焼野原に呆然と立ちつくしていた。

次の日、相談の結果、父は防空壕に残り、母は八王子の従姉の家に、姉は上北沢の婚約者のもとに、わたくしは青梅で一人暮らしを始めた親友のところに行くことになり、母からお金を分けてもらった。わが家族は、一家離散して終戦の日まで耐え抜いたのである。

今から70年も前のことなので忘れてしまった部分が多いが、人を殺しあう戦争は絶対避けなければならぬと痛感している。

この「シリーズ私の体験」欄に、読者の方の体験談をぜひ投稿してください。

秘密保護法撤回の署名を進めましょう

平和の会ニュース、平和かわら版(PDF版)配信しています

平和の仲間へ伝えたいニュースやご意見を事務局にお寄せください FAXは029-831-9122

早い、確実に届くご希望の方はeMailアドレスをご連絡ください